

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500230		
法人名	社会福祉法人正心会		
事業所名	グループホーム河内やすらぎの家		
所在地	佐伯市蒲江大字蒲江浦3951番地		
自己評価作成日	平成27年1月29日	評価結果市町村受理日	平成27年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人間の基本的欲求である食べる事、排泄することを中心に、検温表を用いて全介護職員に健康管理をしっかりと行うことに力を入れている。3Kの心(感謝の心・謙虚の心・共感の心)を持って五感を使ってよく観察し、報告・連絡・相談・確認を機能させ、早めの対応を心がけている。また外気浴、外出を通し、気分転換や筋力低下を防ぎ、地域との交流を多く持つように取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisekensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji-tru&JkyosyoCd=4490500230-009ProfCd=444VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府亭番館 1F		
訪問調査日	平成27年2月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山に囲まれ豊かな自然環境に立地する、開設1年目の1ユニットの施設です。法人設立者と管理者は福祉での経験も豊富で理想に燃えて設立された事が、十分窺い知れます。管理者と職員は地域密着型サービスとしての役割を十分理解し、利用者が社会参加でき、地域に溶け込み生活できる事を考え、夏祭りには地域住民を招待したり、ボランティア(地域の婦人会等)の訪問を積極的に受け入れる取り組みを行っています。法人の理念にある「利用者の心に寄り添い、我が家になるよう・・・」を引き継ぎ、管理者のもと、新任職員が多い中、利用者や家族の様々な思いの実現に向けて力を合わせ、利用者とともに職員も一緒に楽しめるよう取り組み、家庭的で笑顔で暮らせる支援に努めています。又、内外の研修を行い職員の質の向上に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室に理念を掲示し、仕事にとりかかる前に見るようにしている。勉強会等でも理念に触れるようにし、確認し合うようにしている。	法人の理念を事業所の基本理念とし、月1回の会議では、職員で唱和し、意識づけと共有に繋がっています。その中で新年度には各自目標を立て日々の中で話し合い、実践に繋がられるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、クリスマス会等の行事において、婦人会、自治委員及び各ボランティアの慰問を受け入れている。特に8月の夏祭りでは地区住民の方から多数参加していただいている。	運営推進会議等を通し、地域の情報を得るとともに、地域行事の招待や事業所の夏祭りでは地域の方と交流を図ったり、地区の清掃活動の参加、ボランティアの受け入れ等地域との連携を深めるよう努めています。	地域社会との繋がりを大切に考える中で、集会・老人会等で認知症ケア啓発活動を行ったり、相談窓口になれるよう地域のニーズを把握し、相互交流を進められることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域の方へ向けて貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(奇数月)開催している。地域住民の意見や要望を聞き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は家族代表、自治会、老人会、婦人会の代表、地域包括の職員、管理者の出席で開催されており、事業所の実情や利用者の近況報告、災害対策等について意見交換を行い、その意見はサービスの質の向上に活かされています。	会議ではヒヤリハットの実情、対策・報告を行うことで、開かれた事業所を目指すとともに、作成した会議録をケア会議等で提案、意見交換を行い会議に対する職員の意識向上に繋がられる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険等わからないところは連絡を取り合っていますが、ケアサービスの取り組みを積極的に伝える事はまだ不十分です。	運営推進会議に参加があり、情報交換や相談を行い、アドバイスを頂いています。市役所に出向いた時には話をし協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員の正しい理解にまではまだ至っていませんが玄関の施錠はしていません。ケア会議等で折に触れ身体拘束についての話の機会を作っている。	身体拘束を行った事例はなく、身体拘束禁止及び虐待防止マニュアルを作成しています。接遇研修の中で取り上げ、言葉や対応による抑制についても意識を高めています。	新人職員に対する身体拘束廃止に関する研修や、現任職員に対するマニュアルの内容の再確認等、定期的な学習の機会を設ける事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際、講師によるストップ介護虐待、施設・事業所における高齢者虐待、「緊急やむを得ず」身体拘束を実施する場合の留意点について学習しました。管理者は夜間時々ホーム内を抜き打ちで見回るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会での取り組みはできていない。対象事例もなかった。今後に向け学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要説明事項を基に重度化した時の対応や医療連携体制の実際などについて詳しく説明し、質疑応答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会をまだ、立ち上げていないので十分意見等を表せる機会を作れていない。来年度は家族会の立ち上げを行いたい。	職員は利用者との会話、言動、表情から推察して思いを把握しています。家族には面会時や運営推進会議で意見、要望等を聞き運営に反映させています。	家族には意見を出しやすい雰囲気作りを意識していますが、更に「家族会」を立ち上げ家族との交流の機会と十分な意見表出の場を計画しています。「家族会」は行事等と同日開催するなど参加しやすい取り組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりコミュニケーションを心がけ、問いかけたり聞き出したりするようにしている。職員会議や勉強会等にも意見を聞くようにしている。	毎月のケア会議で、積極的に意見を出し、業務改善策を話し合い、ケア向上に反映させています。管理者は職員とのコミュニケーションを図り、相談にのったり、意見を聞くようにしています。又、定期的に個人面談を行う事を検討しており期待します。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を実施し、その結果を賞与・給与に反映している。また、永年勤続表彰により、職員の定着率の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回自己評価及び他者評価を実施している。法人全体で年間計画で研修を行い、個々のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市から案内のある同業者との研修には随時参加させている。同業者との交流は特に行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について本人とできるだけ言葉を交わし、状態の把握に努めています。穏やかに安心した生活をしていただくために行動や言動について観察し、良好な関係でいられるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用について、家族より相談があったら、家族の思いや困っていること、要望等、傾聴し、改善できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が自宅では支援することができなくなり、入居をするケースが多い。本人、家族の要望を聞き、当施設においてできる限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考え方をみんなで共有しており、普段の生活の場において、お手伝いができるように工夫や声かけに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時は最近の本人の状況の報告をすると共にゆっくりと過ごせるように、一緒にお茶を飲んでいただきながらお話ができるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみのある場所等、日頃の会話を通し、聞いておき、外出レクリエーション等にて訪ねるように努めている。	個人記録に記載しており職員で共有するとともに、日頃の会話から馴染みの人や場所を推察し希望を個別支援(外出)に反映させています。馴染みの美容院や近くのスーパーでの買い物、親類、友人の来訪等これまでの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の状況を見ながら、他の利用者とは話をする時間を作ったり、みんなで話す時間などは利用者同士が良い関係でいられるように職員が間に立ち調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方についても、時々職員や利用者と一緒に面会に行き、近況を聞いたり、職員同士の連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の暮らしの中の会話から把握をするように努めています。困難な場合は施設の中で出来る事、出来ないことを伝え、本人の納得したうえで折り合いがつかうように支援している。	日頃の会話の中や表情等で思いや希望、意向の把握に努めています。意思表示が出来る利用者が多い中で、入浴時や夜間等に職員に本音を言える環境や雰囲気作り、声かけを行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から今までの暮らしや生活状況について聞き取り、基本情報を作成し、職員も把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ることは何かという事を把握し、暮らしの中に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議、職員会議等意見交換を行い、ケアの統一を図っている。家族の面会時や電話連絡時に課題やケアのあり方について話し、モニタリング、見直しを行っている。	見直しは6ヶ月毎に行っていますが、期間にとらわれず、心身の変化、利用者の思いに応じて見直しを行っています。ケア会議で職員の意見を参考に介護計画を作成し、家族に丁寧に説明を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記述内容については個人差があり、トレーニングが必要である。様子や気づきについては申し送りの際職員同士報告、連絡、相談を行い情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれないよう、その時々発生したニーズに対応し、必要なサービスは柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	Aコープや道の駅、マリナルカルチャー、高平等買い物やドライブ等計画・実行している。また、地域の婦人会やボランティアなどの訪問の機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談し、希望する医師をかかりつけ医としている。受診や薬の受け取りは職員が行っている。必要時は往診していただくこともある。	利用者や家族の意向の把握と確認により、かかりつけ医の選択が行われています。職員が、同行した際の受診結果の伝達等心身の健康状況は家族と共有しています。全職員間における心身状態の周知は、伝達ノートにより把握されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックや排便チェック等必要時はホーム長やケアセンターの看護師に報告し、薬の確認や処置、受診の必要性等相談し、早めの対応に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、入院時提供表を作成し病院に渡すようにしている。入院中の衣類の洗濯やオムツ搬入も支援しているのでその際、病院スタッフと情報交換するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される段階で、管理者または介護支援専門員が本人あるいは家族並びにかかりつけ医と方針を話し合うようにしている。	入所時に、終末期の看取り援助の可能な施設であることの説明が行われています。体調の変化に伴う重度化における対処策やその後の対応について、利用者・家族、協力医療機関との話し合いに基づき、生活や支援の方向性の確認に取り組む姿勢が表明されています。	緊急時の対応として連絡手順等が整備されており、利用者や家族との意向の尊重を基本にしています。終末期の援助については、仕組み(職員支援体制・協力医療機関との連携等)づくりの過程にあり、前進的な協議の進展に期待が持たれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	少しずつ勉強会で進めているが今後、定期的に応急手当や初期対応の訓練も行っていきたい。急変時の緊急連絡手順を記録の最初のページに綴じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	屋間想定火災避難訓練を実施できた。近隣の協力体制は得られている。	初期消火・迅速な避難に向けた、施設全体での避難訓練(年2回)に取り組んでおり、地域住民への協力の必要性に着目する中で、体制づくり(協力依頼)が行われています。	危機感のある安全な避難の一環において、夜間の火災・災害におけるマニュアルの強化と体制づくり、職員への避難救助プロセスの周知と避難訓練における課題の発見と見直しの取り組みを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ポータブルトイレの配置やカバー掛けを行う等配慮している。丁寧語で声かけをするよう心がけている。	個々の利用者・家族の尊厳とプライバシーの保持の支援における研修の過程が見られます。利用者の状態への気付きと職員相互間における共有(職員会議)を支援の基本に、羞恥心に留意した声かけ・援助への取り組みの様子が伺えます。	職員育成の観点より、外・内部での研修(接遇・コンプライアンス・プライバシー保護・介護技術他)において、適正・経験の勘案による自己成長意欲の向上に向け、研修内容・取り組みの工夫に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中、利用者に応じて声かけし、入浴後の衣服等本人が選択したり、決定したりする場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは基本的に決まっているが、その時に応じて本人の状態を見ながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聴き取り、行きたい美容室へ必要なメニューを伝えて予約をとり、送迎している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好物・形状、アレルギー等を厨房に伝え、準備・提供していただいている。盛り付けはユニット内で行っている。	料理は法人内の施設より配給を受ける中で、会話の中から嗜好の把握に努めながら、好みの献立リクエストを発信しています。おやつレクや、イベント食(居住地区の習わし行事食の実現・誕生会食等)の支援、座席への配慮(相性)が行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検温表に食事摂取量と水分量を記録しチェックしている。呑み込みの悪い方には主食をおかゆにしたり、副食を刻みやブレンダーにかけたり、とろみをつけたりと状態に合わせて食べやすい形態に変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立できない人は職員が行っている。また、出来る方については声かけだけしているが時々口腔内の点検も必要。業務日誌に実施のサインを記入することで実施し忘れを防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はできるだけトイレを使用している。夜間のみポータブルトイレを使用するようになっている。各利用者の排泄状況に併せて、パットやリハビリパンツの交換を促し、支援している。	利用者の尿意の意向を支援の糧とし、記録によるパターンの把握と行動の特徴への気づきを大切に、プライバシーに配慮しつつ、個々の状態に合わせた声かけと失敗しない支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が2日目ではあるように、毎日、体操や体を使った運動を取り入れている。ない方はお腹に温湿布をしたりマッサージをしている。それでもない方は看護師に相談し指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	まだ職員の都合で進めている事も多い。時間帯についてはできるだけ本人の希望を取り入れている。入浴を拒む方については職員が連携して声かけの工夫を行うが無理強いはしないように支援している。	週2から3回の入浴に努めており、全職員と利用者との信頼関係づくりへの取り組みの姿勢が伺えます。その日の気持ちと向かい合いながら、職員協同の臨機応変な援助、安全な支援と会話を大切に、和める雰囲気づくりに努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温湿度計を見て、冷暖房を入れたりしている。生活習慣で雨戸を繰る方の対応もしている。乾燥していたら、濡れタオルを掛けておく等工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者別に朝・昼・夕・眠前に内服する薬の一覧表を作成。内容が変わった都度伝達ノートへ記入し、職員へ周知徹底している。又処方内容書綴に全員の処方内容と効果と副作用がわかるように綴じていつでも見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出を計画したり、嗜好品は週1回注文を取り翌日配達してもらっている。天気の良い日は散歩をしたりして外気浴を楽しんでいる。役割として自分で洗濯物をたためる人は自分で行き、仕分けの手伝いもしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時の思いをできるだけ叶えられるようにチームで連携を図っている。買い物やドライブを目的に外出計画も立て実施している。	折々の季節の風情や、利用者の希望の把握・思いへの寄り添いを大切に、集団外出や個別支援が行われています。日常的な散歩・外気浴、買い物による気分転換も図られており、職員間の協同による支援への取り組みの様子が伺えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理の出来る方にはお金を持っていただいている。週に1回、商店より注文を取り、翌日配達をしていただき、支払ってもらっている。お金を所持していない方が不安にならないよう配慮をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関横に電話を設置し、家族等に電話をかけたい時は自由に使用していただいている。一人で掛けられない利用者は職員が電話番号を押し、利用者ご本人に代わりっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や利用者と一緒に作った季節感のある創作品を配置している。温湿度計を設置し状況に応じて加湿器、エアコンを使用している。夏の日差しが強い時は葦簾を立て掛けたり、遮光フィルムを張り、不快感のないように工夫している。	個々の利用者の生活リハや、職員との共同のゲーム遊び・四季の装飾品作成・発声口腔体操等により、心身レベルの安定に取り組みながら、楽しめる雰囲気づくりに努めています。個の尊重と相性の把握による、安らぎと安心感に繋がる環境づくりへの取り組みの姿勢が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置している。利用者同士で過ごせるような居場所づくりを工夫していきます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所する前に使用していた家具や本人の好みのものを家族と相談しながら置き、なじみのある環境づくりに努めている。	朝食後は、居室にての静養が行われています。個々の利用者の興味や思いを大切に、物品の持ちこみを支持しており、家族との交流と連携、職員間における支援の統一性を図りながら、安心して安全な、くつろげる環境づくりに取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どの居室からもトイレまでの距離は近く、ドアの開閉について困難な方には暖簾等を使用し安楽に使用できるように工夫している。ホールには利用者の手創りの日めくりカレンダーを置き活用している。		